

2021年3月、新たに中学校校舎が竣工します。教室が6つと多目的教室が3つ、自習室、相談室、茶室（「和松庵」）、職員休憩室、講堂などが備えられます。右のパースはその校舎のシンボルとなる講堂（仮称「協創ホール」）。270席の固定席に加え、30席前後の移動席を合わせて約300名を収容する施設となります。固定席にはタブレットも収納型で据え付けられ学習スペースとしての活用も可能です。さらに、学年集会や様々な講演会などと活用性の高い「協創ホール」となります。

また、地域の皆様への開放も検討しています。是非ともご活用いただけましたら幸いです。



良き習慣化が自分を育む

お盆明けには涼しくなる、なんていうのは20年ぐらい前までのことでしょうか。今頃はお盆を過ぎても、9月に入っても日中の熱さが和らぐことはないようです。先日の全校朝礼で、「コロナ対策のためこの暑さの中でマスクもしなくてはいけない、熱中症対策も求められる。仕方がないことだけど、十分に注意をして過ごそう」と話しました。マスクや手洗いをする習慣、水分補給をする習慣、これらは決して大袈裟ではなく自分の身を守る習慣の一つと言えるでしょう。

習慣といえば、次のようなことがありました。新型コロナウイルス感染症拡大防止による学校休業の影響で1学期の期末試験が7月終わりごろに実施されました。試験が終了してから間もなくのこと、中学校1年生の女子生徒3人に職員室前のスタディーホールで呼び止められました。「校長先生、どうやったら勉強するようになるんでしょうか?」という単刀直入な質問でした。たまたま通りかかったからなのか、あえて私に聞きたかったのか、それは定かではなかったのですが、あえて私を選んでくれたのだろうと勝手に信じてしまい、つつい話し込んでしまいました。「そうねえ」と切りだしながら、「そうか、この子たちは中学校に入ってから初めての本格的な試験というものを体験したのか。思うような結果が得られず、どうしたらいいのか真剣に考えていたんだな」と気遣いながら回答を探しました。「あのね、勉強を習慣にすることが大切だよ」と話し始めたのです。

それは私が中学校3年生の時（今から47年前）、生涯で最も影響を受けた担任の先生に言われたことであり、大学受験のための浪人中（今から43年前）に予備校の先生からまったく同じことを言われたことでもあったのです。以来、学級担任をしていた頃は折に触れて生徒に話していました。

「受験生には必須のことなんだけど、『3点固定』と言ってね、“起床の時間”、家での“勉強開始時間”、

蒲団に入る“就寝時間”の3つの時間を一定にすることで前向きに勉強するようになっていわれているんだよ」と話すと「はあ?」と言いながら怪訝そうな表情になったので説明を加えました。「要するに規則正しい生活をするのが基本。夜更かしをしたりすると朝起きる時間が乱れ、ややもすると寝坊して朝食も取らずに登校することになったりする。あるいは、寝る時間もそうだけど、その日その日でさまざまなことの時間活用が不規則になると、いい結果・成果など生まれなくなる。だから、3つの時間を決める、とくにいろんな誘惑を断ち切って勉強開始の時間が来て机に向かうようになったら素晴らしい。これで勉強するようになると思うよ、きっと」。3人とも納得してくれたようでした。

先日話したことを振り返っていますが、3人の女子生徒には本来“起床時間”と伝えるべきところを“朝食時間”と伝えたような気がしています。本質的には差異がないと思われますが、間違っていました、ごめんなさい。

習慣というのは、脳で考えなくても自然と体が動き出すことを言います。『3点固定』などの習慣によって学習習慣を確立していくことは中高生にとって重要なことです。13歳~18歳の頃にしかできない習慣化であり、このときに身につけた力は生涯にわたって生かされる自分の財産に必ずなります。

習慣化することが望ましいのは、言うまでもなく何も学習習慣だけではありません。自然と体が反応するという場面が極めて大切な意味を成すことがあります。例えば、私たちはさまざまな価値観の人と出会い、共に過ごしていますが、その時に求められる表情なり、言葉なりが良好な習慣として身につけていければいかがでしょうか。

適した良好な挨拶の習慣、「人に優しくする」習慣は、間違いなく自分を育むことになるはずで、それは学習習慣以上に大切なことだと信じています。